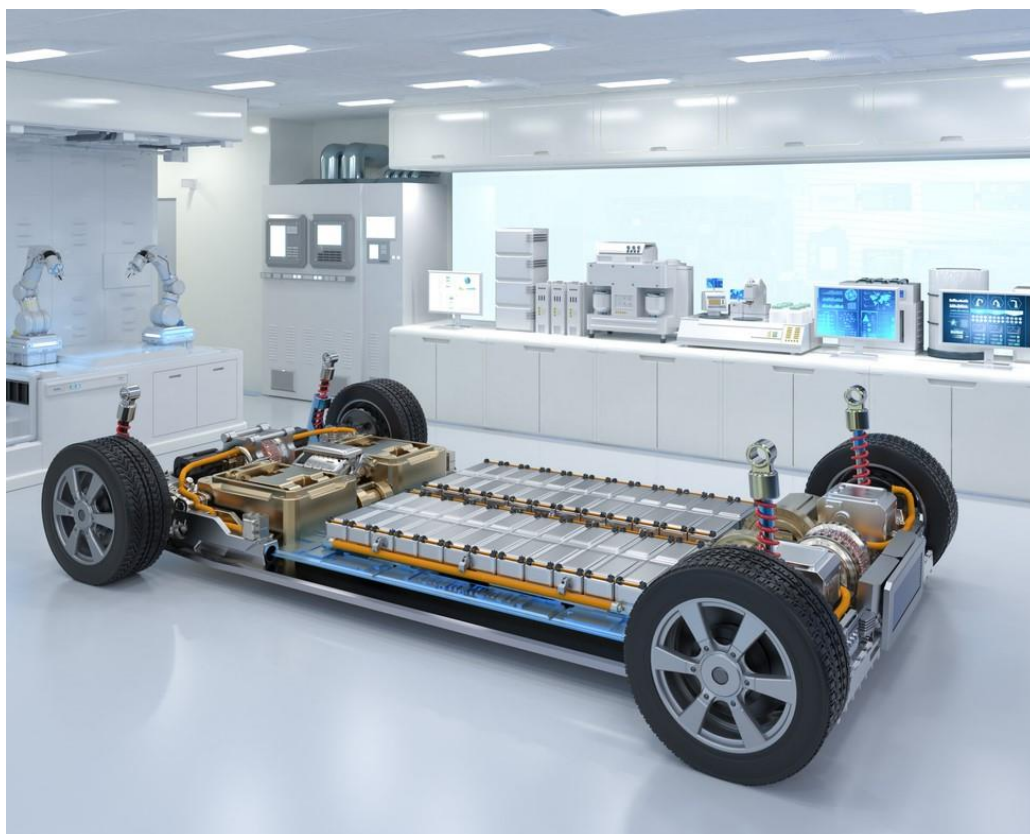


クリーンテック戦略月次レター（2023年1月の振り返り）

EV向けリチウム関連企業、 需要や投資の大幅拡大を予想

水関連技術や水処理で企業合併へ

当月は、米国や欧州でインフレ減速の兆しが見られ、近く中央銀行が利上げを停止する期待が高まったことから、グローバル株式市場は上昇しました。ほとんどの地域が上昇し、中でもゼロコロナ政策の解除が投資家心理を押し上げた中国が上昇を先導しました。セクター別では、情報技術と一般消費財セクターが大きく上昇した一方、ヘルスケアや公益などディフェンシブ・セクターは市場全体を下回るパフォーマンスとなりました。グロース関連銘柄は、バリュー関連銘柄を大きく上回るパフォーマンスとなりました。



生産が拡大する一方の電気自動車などのバッテリー用に使われるリチウムの生産に、市場の注目が集まっています。

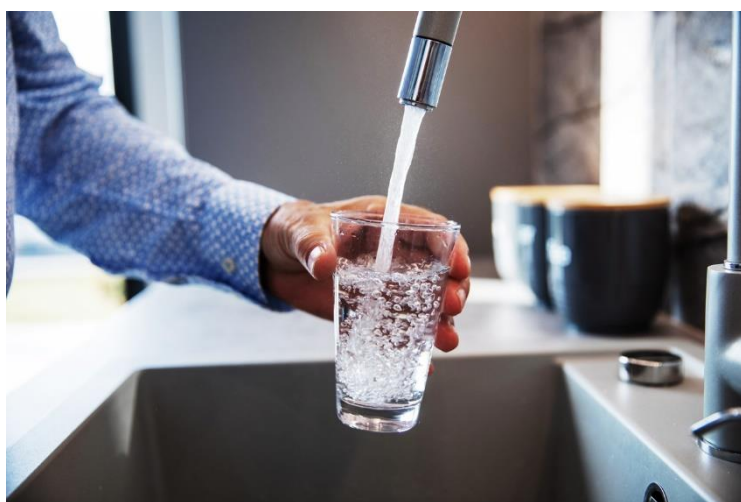
1月のクリーンテック戦略は、「低炭素輸送」銘柄の大幅な回復と堅調な「スマートエネルギー」銘柄により、世界株式（MSCI ACWI、米ドルベース）をアウトパフォームしました。一方、「廃棄物処理・資源有効活用」と「持続可能な食品供給」は、市場全体と同程度のパフォーマンスとなりました。

高まるリチウム生産およびEVへの注目

低炭素輸送関連分野では、リチウム生産大手のアルベマールが堅調なパフォーマンスとなりました。同社は当月、戦略的事業計画を発表し、リチウム市場は向こう数年間にわたって需要が強い状態が続くと見ているため、投資拡大計画を策定し年率20-30%の売上高成長を目指す考えであることを示しました。同社は、チリとオーストラリアに世界的に見ても低コストで生産できるリチウム塩鉱石とリチア輝石（リチウムを含む鉱物の一種）の鉱山を有しており、その規模、経験、強固な財務基盤を武器に、電気自動車（EV）やエネルギー貯蔵機器の高い需要から恩恵を受けるのに極めて優位な立場にあります。

アルベマールはまた、米ノースカロライナ州にリチウム加工施設を建設する予定で、米政府のEVバッテリーおよびその原材料となる鉱物資源の国内生産促進に向けた助成金約1億5000万ドルを受け取る見込みです。

当月は、米ラスベガスで開催されたテクノロジー見本市「CES」でEV関連の出展が目立ち、月末には



EV大手のテスラが2022年12月通期決算を発表し、売上高と純利益が過去最高を更新するなど、EV動向への関心がいっそう高まりました。

水処理関連で大きなポテンシャル

環境汚染防止関連分野では、水処理企業エヴォクア・ウォーター・テクノロジーズ（エヴォクア）が、水質計測機器メーカーのザイレムからの買収提案に合意したとの発表を受けて株価が大きく上昇しました（両銘柄とも当ファンドの組入銘柄）。この買収はエヴォクアの全株式を対象とした

エヴォクア・ウォーター・テクノロジーズは、飲料水の品質向上など水の管理および処理に取り組んでいます。

株式交換によるもので、買収価格は発表前日の引値から大幅なプレミアムとなりました。合併後の企業は業界をリードするザイレムの水関連技術と販売力、エヴォクアの水処理サービスを同時に提供することが可能となり、米国外への市場拡大も見込めることから、魅力的な提案であると考えています。

1月上旬にアクサIMでは「[水は責任ある成長機会のパイプライン](#)」記事を発表しており、水ストレスや水不足に向けた投資機会を説明する中で、エヴォクアとザイレムに言及していますので、ぜひご覧ください。なお、同記事は買収発表前のものです。

欧州の暖冬は朗報だが、長期的にはエネルギー不足のおそれ

ロシアからの天然ガス供給減が引き続き天然ガス市場を逼迫させているものの、液化天然ガスの購入と産業向けの需要低下に加え、予想されたよりも温暖な冬の気候の影響もあって天然ガス貯蔵率は改善し、その結果、過去数ヵ月にわたって天然ガス価格は低下しました。これは欧州の家計にとって安心材料ではあるものの、ウクライナ紛争に解決が見られなければエネルギー不足が長期化するとのおそれは依然として残っています。エネルギー価格高騰に対処すべく、欧州各国では、エネルギー企業などに対する超過利潤税や特別支援策などを通じて消費者を守る措置が講じられ、これらは少なくとも年末までは継続されると期待されています。

最近の中国のゼロコロナ政策解除は、同地域の経済活動にとってポジティブな展開です。サプライチェーンの混乱も過去数ヵ月において緩和されつつあり、運用チームでは、クリーンテック企業にどう影響するか、引き続き状況を注視しています。

ポートフォリオの動向

スマートエネルギー関連分野では、シュナイダーエレクトリックが堅調なパフォーマンスとなりました。同社は低・中電圧電気製品、産業自動化機器、エネルギー効率化ソリューションなどを手掛けており、最近では強力な価格決定力が売上を支えてきましたが、今後はサプライチェーン問題の改善、高水準の受注残による販売数量の増加が業績の支えになると見られます。当月、同社はソフトウェア企業アヴィバ・グループの買収を完了し、これにより産業用ソフトウェア事業の更なる拡充が見込まれます。

持続可能な食糧供給関連分野では、建設、農業、輸送業向けにハードおよびソフトウェアを提供するトリンプルがプラス寄与となりました。サプライチェーン問題とマクロ経済減速の見通しにより、同社の株価は過去数ヵ月にわたって弱含んでいましたが、建設および農業ソリューションへの強い需要が同社の売上高成長の支えとなっている他、ソフトウェアのサブスクリプションによる経常収益の伸びにより収益の循環的な変動を抑えることができています。

ディスクレマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2022年9月末時点で約8,170億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年12月末時点で5,630億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年まで

に、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2021年12月末時点で、アクサIMは18カ国23拠点において2,460名超の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-29146